

令和〇年度

学士論文

卒業論文執筆ガイド

2026年1月22日版

Undergraduate Thesis Writing Guide

〇〇大学 〇〇部〇〇科
〇〇研究室

学籍番号 学籍番号
氏名 氏名
指導教員 〇〇〇〇 助教授

目次

第 1 章	L <small>A</small> T <small>E</small> X での具体的な書き方	1
1.1	図の挿入方法	1
1.2	表の挿入方法	2
1.3	数式の書き方	4
1.3.1	インライン数式（文中の数式）	4
1.3.2	別行立て数式（番号付き）	4
1.3.3	複数行の数式	4
参考文献		5

第1章 \LaTeX での具体的な書き方

このテンプレートを使用する際の、具体的な記述方法を説明する。これはあくまで一部の例であり、詳細は \LaTeX の参考書やオンラインドキュメントを参照されたい。

1.1 図の挿入方法

図を挿入する際は、`figure` 環境を使用する。

図のコード例を示す。

```
\begin{figure}[htbp]
\centering
\includegraphics[keepaspectratio, width=0.8 \linewidth]{figures}
\caption{caption}
\label{fig:label}
\end{figure}
```

一行ずつ解説する。

```
\begin{figure}[htbp]
\end{figure}
```

\LaTeX は、何かの構文を始めるときに `\begin{...}` を使い、終わるときに `\end{...}` を使う。この場合、`figure` 環境を開始および終了している。`[htbp]` は、図の配置に関するオプションである。`here` (ここ), `top` (ページの上部), `bottom` (ページの下部), `page` (専用のページ) を意味し、左から順に優先される。

```
\centering
```

このコマンドは、図を中央に配置するためのものである。

```
\includegraphics[keepaspectratio, width=0.8 \linewidth]{figures/example.pdf}
```

このコマンドは、実際に図を挿入するためのコマンドであり、`figures/example.pdf` というファイルを挿入している。`width=0.8 \linewidth` は、図の幅を本文の幅の 80 % に設定する

ことを意味している。`keepaspectratio` は、図の縦横比を維持するためのオプションである。

```
\caption{caption}
```

このコマンドは、図のキャプション（説明文）を設定するためのものである。キャプションは図の下に表示される。

```
\label{fig:label}
```

このコマンドは、図にラベルを付けるためのものである。ラベルを付けることで、本文中で図を参照することができる。

図のファイルは `figures/` フォルダに配置すること。

本文中の図の参照は以下のように行う。

```
\Fig{fig:label}に示すように, ...
```

`\Fig{...}` は「Fig. 1」のように表示される

1.2 表の挿入方法

表を挿入する際は、`table` 環境を使用する。

```
\begin{table}[htbp]
\centering
\caption{実験条件}
\label{tab:conditions}
\begin{tabular}{lcc}
\hline
項目 & 値 & 単位 \\
\hline
温度 & 25 & \si{\celsius} \\
圧力 & 101.3 & \si{\kilo \pascal} \\
\hline
\end{tabular}

```

```
\end{table}
```

一行ずつ解説する。

```
\begin{table}[htbp]  
\end{table}
```

table 環境を開始および終了している。[htbp] は、図と同様に表の配置に関するオプションである。

```
\centering
```

このコマンドは、表を中央に配置するためのものである。

```
\caption{実験条件}
```

このコマンドは、表のキャプション（説明文）を設定するためのものである。キャプションは表の上に表示される。

```
\label{tab:conditions}
```

このコマンドは、表にラベルを付けるためのものである。ラベルを付けることで、本文中で表を参照することができる。

```
\begin{tabular}{lcc}  
... \end{tabular}
```

この部分が実際に表を作成する部分である。tabular 環境を使用して表を作成する。{lcc } は、表の列の配置を指定している。ここでは、1列目が左寄せ(l)，2列目と3列目が中央寄せ(c) であることを示している。表の内容は、行ごとに記述し、各セルは &で区切る。行の終わりは

```
\\"
```

で示す。

実際に表を作成するときは、すべて中央揃えで作成すること。また、web上で表を作成するツールがあるため、そちらを利用することも推奨する。

1.3 数式の書き方

1.3.1 インライン数式（文中の数式）

本文中に $E = mc^2$ のように記述する。

1.3.2 別行立て数式（番号付き）

別行立て数式では `equation` 環境を使用する。

$$E = mc^2 \quad (1.1)$$

本文中の式の参照：

```
\Eq{eq:einstein}より、…
```

`\Eq{...}` は「Eq. 1.1」のように表示される。

1.3.3 複数行の数式

複数行の数式は `align` 環境を使用する。

$$a = b + c \quad (1.2)$$

$$d = e + f \quad (1.3)$$

```
\begin{align}
a &= b + c \ \label{eq:first} \\
d &= e + f \ \label{eq:second}
\end{align}
```

複数行の数式でも、本文中の式の参照は、Eq. 1.2 や Eq. 1.3 のように行うことができる。

参考文献

参考文献